

バス路線の維持・充実に向けた走行環境整備事業 (青葉台駅周辺への連節バス導入及びバス路線再編について)

1 バス事業の現状と課題について

人口減少や超高齢社会の到来など社会情勢が変化の中で、市民に身近な路線バスの役割はますます大きくなっています。しかし、バス事業は利用者の減少や乗務員不足の影響により、路線の維持が厳しい状況となっています。(図1、2参照) 今後はバス路線の維持・充実に向けて、少ない人手で担うことができる効率的な路線網を構築させていく必要があります。



図1: 横浜市内の1日あたりバス乗車人員の推移

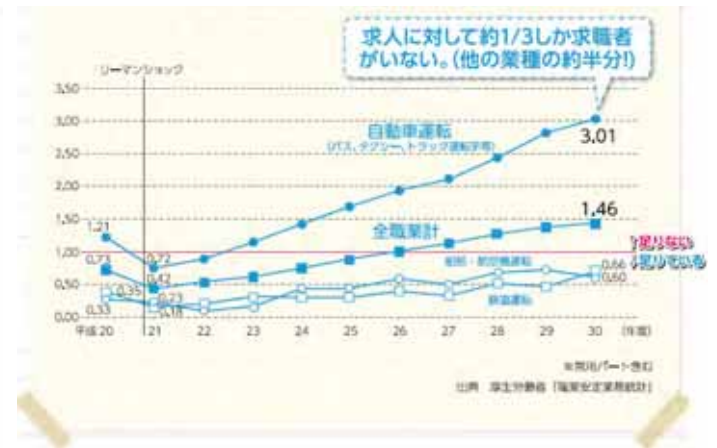


図2: 国内の有効求人倍率の推移

2 青葉区の現状と課題について

青葉区は東西方向に走る鉄道を骨格とし、各駅を起発着する路線バスが地域の交通ネットワークを形成しています。しかし、各バス事業者は厳しい経営環境の中、全市的に路線の減便等を実施しており、青葉区においても利用実態に応じたダイヤ調整を実施しています。(図3参照。)中でも、奈良地区など区北西部は路線バスが重要な移動手段となっていますが、他地区と比較して、長距離路線が多い事から運行効率が悪く、今後さらなる路線の廃止や大幅な減便による、日常生活の移動に支障が生じることが危惧されます。



図3: 青葉区内での減便状況について (令和3年1月時点)

3 取組の概要

青葉区北西部のバス路線の課題に対応するため、まず、地区内の高頻度、高需要の青61系統（青葉台駅～日体大）に大型バスの約2倍の定員となる連節バスを導入することで、サービス水準を維持しつつ車両を減らし、運行の効率化を図ります。併せて、周辺路線を含めて再編を実施し、それらにより生じた経営資源の再配分により、面的なバス路線の維持・充実を図ります。

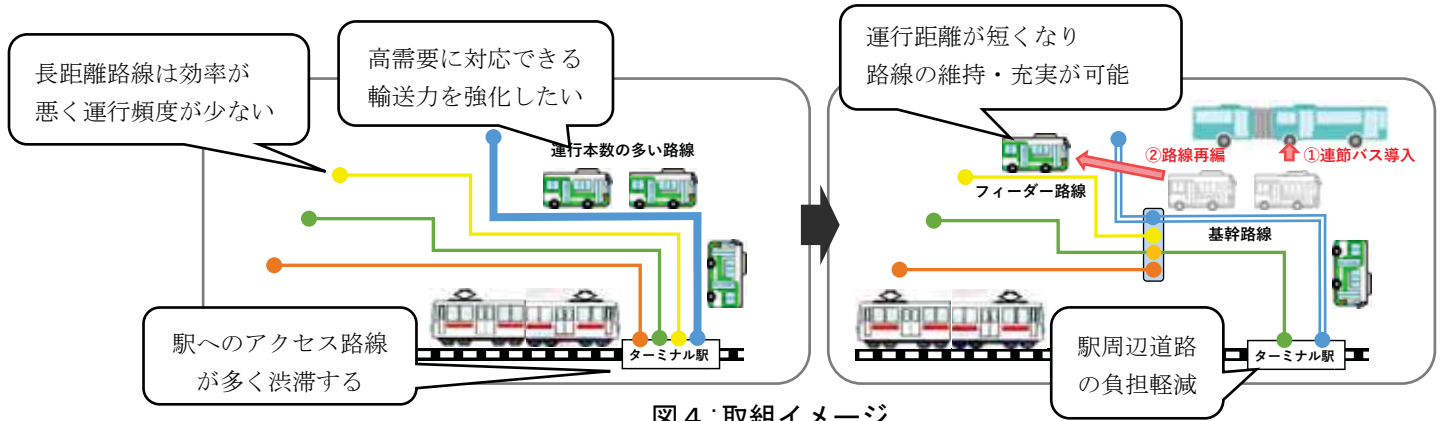


図4：取組イメージ



図5：青葉台駅北西部バス路線（川崎市発着路線を除く）

4 今後の予定（令和3年度）

- ①地域・関係者（道路管理者・交通管理者等）協議
- ②整備箇所の調査・測量・設計